

1. 職名・氏名 准教授・三浦孝太郎

2. 学位 学位 博士、専門分野 農学、授与機関 名古屋大学、授与年 2008

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 総合農学（8単位） 1年次
② 内容・ねらい（自由記述） あわらキャンパス内の圃場にて、年間を通じ実際に農作物を栽培し、収穫、加工、消費までを体験する中で、栽培技術、農作業機操作技術、加工・調理技術、簿記技術を身に付けるとともに、農作物と気象、土壌環境、他の生物との関係性を観察、理解し、実験計画法、土壌分析法、雑草・病害虫被害調査法、農作物の収量調査法、統計解析法を学習する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 学生が自由にマイファームで耕作できる様に農機具取扱いを注視するとともに自らも耕作を行い指導に当たった。 <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 2人】 【フィールドワーク 28件】</p>
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食農環境・文化概論（4単位） 1年次
② 内容・ねらい（自由記述） 食えることと農業とは本来密接につながっており（食農）、それを取り巻く環境・文化はこの食農と切り離せない存在である。それが本来の「農」であり、「農」とは総合知である。この理念にもとづき、「農」に関わる事柄を実務経験者から直接学び、意見交換をすることによって自分の考えを持つ。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 外部講師による講義では学生から積極的に質問できる様に簡単な質問を先に示す様務めた。 <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 17人】</p>
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食農環境実習 I（2単位） 1年次
② 内容・ねらい（自由記述） 福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習先で学生が積極的に自分の考えを示すことが出来る様に、自分が感じた何気ないことも積極的に口に出す様務めた。 <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 14人】 【フィールドワーク 20件】</p>
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食農環境演習 I（4単位） 1年次
② 内容・ねらい（自由記述） 食農環境実習 I で体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施する

<p>ための準備を行う。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習で得たデータの活用方法や、特任講師から学んだ事をプレゼンテーションし、自分で得たデータや調査資料を用いてその活用方法を学べるようにした。</p> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 14人】 【フィールドワーク 20件】</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食農環境実習Ⅱ（2単位） 2年次</p> <p>② 内容・ねらい（自由記述） 福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習先で学生が積極的に自分の考えを示すことが出来る様に、自分が感じた何気ないことも積極的に口に出す様務めた。</p> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 16人】 【フィールドワーク 21件】</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食農環境演習Ⅱ（4単位） 2年次</p> <p>② 内容・ねらい（自由記述） 食農環境実習Ⅰで体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習で得たデータの活用方法や、特任講師から学んだ事をプレゼンテーションし、自分で得たデータや調査資料を用いてその活用方法を学べるようにした。</p> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 16人】 【フィールドワーク 21件】</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 福井を学ぶ（2単位） 1・2・3年次</p> <p>② 内容・ねらい（自由記述） 15名の教員によるオムニバス形式で実施し、福井の自然・社会・経済・文化に関する理解を深める。1コマ分「コシヒカリの育成とこれからの育種」を担当。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 全学部の学生が対象であり、主に1年生が聴講しているため、できる限り専門用語を少なく分かりやすい講演に心がけた。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 育種学実験Ⅱ（1単位） 3年次</p> <p>② 内容・ねらい（自由記述） 育種の現場で利用できるDNAシーケンスについて理解し、技術を習得する。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実験の原理について、海外研究者の動画を利用するなど、理解しやすいよう工夫した。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 育種学Ⅱ（2単位） 創造農学科1・2・3年次、生物資源学科3年次</p> <p>② 内容・ねらい（自由記述） 雑種強勢育種法や「DNAマーカー選抜法」に加えて、「QTL育種法」や「遺伝子組換え作物」、「ゲノム編集」といった最新の育種技術とその利用について解説する。</p>

<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 理解を深めるために、海外の研究者が発信している動画や、実例を多く紹介した。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 先端農業技術活用論（2単位） 3年次</p>
<p>② 先端的な農業技術（IoT、AI、GPS、ドローン、機械学習、衛星利用、農業資材、育種技術、施設園芸、植物工場等）について実践的に活用している講師をオムニバス形式で招き、それらの現在の活用方法を学び、未来型農業の実現のためにこれらの技術をどう活用するか、さらにどんな技術を求めるかを議論する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 最新の技術や活用事例を紹介し、理解を深めるために、海外の研究者が発信している動画や実例を多く紹介した。特任講師の授業では積極的に質問できるように促した。 【ゲストスピーカー 10人】</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食品加工実習（1単位） 3年次</p>
<p>② 内容・ねらい（自由記述） 農産物加工の基礎、食品衛生管理、6次産業化に関する素養を身につける。6次産業に関連する県内施設・企業の見学、食品加工実習を行う。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習先で学生が積極的に自分の考えを示すことが出来る様に、自分が感じた何気ないことも積極的に口に出す様務めた。 【ゲストスピーカー 9人】 【フィールドワーク 6件】</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業論文（8単位） 生物資源学科4年次</p>
<p>② 内容・ねらい 研究することとは、どのような活動かを体得する。原著論文を読み、問題点を明確にし、作業仮説に対して解答を得る試みを実際に行う。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 丁寧な実験、再現性、結果の解釈、考察等が自ら行えるよう指導した。専門外の人にもわかりやすくプレゼンテーションすることを意識して指導した。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 専攻演習（2単位） 生物資源学科4年次</p>
<p>② 内容・ねらい 受講者は原著論文を2報精読し発表する。原著論文に引用されている文献や研究背景を理解した上で発表する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 原著論文（序論、実験手法、結果、考察）を、正確に読みこなすこと、また、わかりやすくプレゼンテーションをすることを心がけて指導した。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 植物分子生物学（2単位） 大学院修士課程</p>
<p>② 内容・ねらい 分子生物学、生化学、細胞生物学、遺伝学を用いて解明されつつある、高等植物におけるホルモンを介する情報伝達の仕組みを学ぶ。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実験技術の進歩が早いことと、証明の手段が刻々と変化している。この点を特に留意して、講義を行う。 【ゲストスピーカー 1人】</p>

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
分子生物学専攻演習 (4 単位) 大学院修士課程

② 内容・ねらい

受講者が、自らの修士論文の研究テーマに関する領域のレビューを行うことを目的とする。最新の原著論文を、正確に、多数、早く読みこなすことを課している。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

関連分野の論文を総合してレビューができることを目的としている。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
分子生物学専攻特別演習 (4 単位) 大学院博士課程

② 内容・ねらい

博士論文の研究テーマに関する研究のレビューを行うことを目的とする。最新の原著論文を読み込み、自分の研究テーマの立ち位置を理解することを目的としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

関連分野の論文を総合してレビューした後、内容に関する質問に対し適切にディフェンスできる様指導している。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
分子生物学専攻実験 (8 単位) 大学院修士課程

② 内容・ねらい

最新の科学技術を用いた論文を調べ、これらの技術を用いて各人が直面する未解明な問題に、一定の解決を見いだすことを目的としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

各自が必要とする実験手段、詳細に理解し、実験によって得られた結果を合理的に解釈できる様になることを目的としている。また、社会で必要となるプレゼンテーション技術を習得できるようわかりやすい内容にする事を指導している。

(2) その他の教育活動

内容

1. 公開講座：創造農学科おもしろ講座

第3回 品種改良っておもしろい！ 2022年8月18日

2. さばえライブラリーカフェ

「福井県立大学で取り組んでいるお米の新品種開発」2022年7月8日

4. 研究業績

(1) 研究業績の公表	
① 著書	【0本】
② 学術論文 (査読あり)	
1. Suganami M., Kojima S., Wang F., Yoshida H., Miura K. , Morinaka Y., Watanabe M., Matsuda T., Yamamoto E., Matsuoka M. Effective use of legacy data for GWAS to improve the credibility of QTL detection in rice. <i>Plant Physiology</i> in press	
2. Bessho-Uehara K., Masuda K., Wang D., Angeles-Shim R. B., Obara K., Naga K., Murase R., Aoki S., Furuta T., Miura K. , Wu J., Yamagata Y., Yasui H., Kantar M., Yoshimura A., Kamura T., McCouch S. R., Ashikari M. <i>REGULATOR OF AWN ELONGATION 3</i> , an E3 ubiquitin ligase, is responsible for loss of awns during African rice domestication. <i>Proc. Natl. Acad. Sci. USA.</i> in press	
3. 中岡史裕・小林麻子・渡辺脩斗・両角悠作・町田芳恵・ 三浦孝太郎 ：「極良食味水稻品種「いちほまれ」の化学突然変異による出穂早期化」，北陸作物育種学会，57巻 p.47-50 (2022)	
4. Chaya G., Segami S., Fujita M., Morinaka Y., Iwasaki Y., Miura K <i>OsGGC2</i> , G γ subunit of heterotrimeric G protein, regulates plant height by functionally overlapping with <i>DEPI</i> in rice <i>Plants</i> 11, 422 (2022)	
	【4本】
③ その他論文 (査読なし)	
	【0本】
④ 学会発表等	
1. 茶谷弦輝，吉田英樹，森中洋一， 三浦孝太郎 ，渡辺脩斗，町田芳恵，中岡史裕，小林麻子，松岡信 テンシプレッサーを用いた越南1~305号の米飯物性の評価 北陸作物育種学会 2022年12月1日 (オンライン大会)	
2. 中岡史裕，小林麻子，渡辺脩斗，両角悠作，町田芳恵， 三浦孝太郎 化学変異原処理による出穂期および胚乳澱粉変異の選抜 北陸作物育種学会 2022年12月1日 (オンライン大会)	
3. 橋本舜平，中村 (荒木) 聡子，篠原 (大前) 梢，中村春貴， 三浦孝太郎 ，春日重光，佐塚隆志 ソルガム胚乳高糖性変異体の原因遺伝子同定と育種利用の可能性 日本育種学会第141回講演会 2022年3月20-21日 (オンライン大会)	
4. 小林麻子，吉田英樹，森中洋一， 三浦孝太郎 ，渡辺脩斗，町田芳恵，中岡史裕，松岡信 形質とゲノムから読み解く福井農試水稻育種75年の歴史 日本育種学会第141回講演会 2022年3月20-21日 (オンライン大会)	

<p>5. 茶谷弦輝, 瀬上修平, 藤田萌香, 森中洋一, <u>三浦孝太郎</u>, 岩崎行玄 イネヘテロ 3 量体 G タンパク質 $\gamma 5$ サブユニットは DEP1 と冗長的に草丈を制御する 日本育種学会第 141 回講演会 2022 年 3 月 20-21 日 (オンライン大会)</p>	【5 件】
<p>その他の公表実績</p>	【0 本】
<p>(2) 科研費等の競争的資金獲得実績</p>	
<p>【学外】</p>	
<p>1. 科研費補助金・基盤研究 (C) 「イネの草丈・穂・種子のサイズをコントロールする G タンパク質シグナル伝達経路の解明」 (2020・4 月～2024・3 月) 330 万円 (代表者)</p>	
<p>2. 若狭湾エネルギー研究センター・公募型共同研究事業産学連携研究「福井の酒蔵の要望に応じて育成した酒米新品種「山田錦 FPU1 号」の実醸造による評価と普及」総額 720 万円 (2021・7 月～2023・2 月) (代表者)</p>	
<p>3. 若狭湾エネルギー研究センター・共同研究「主要穀物育種における重イオンビーム照射技術の利用」130 万円 (2019・6 月～) (分担者)</p>	
<p>4. 若狭湾エネルギー研究センター・共同研究「変異誘発促進技術を用いた有用新品種候補の育成」100 万円 (2022 年・7 月～) (分担者)</p>	
<p>【学内】</p>	
<p>1. 戦略的課題研究推進事業「健康増進効果が期待できる γ-オリザノールが豊富に含まれるコメの開発」210 万円 (2022 年・7 月～) (代表者)</p>	
<p>(3) 特許等取得</p>	
<p>1. 稲種：山田錦 FW1 号 (品種登録出願番号：第 3 6 2 3 5 号) *2022 年品種登録申請</p>	
<p>2. 稲種：ふくむすめ (品種登録出願番号：第 3 4 4 8 0 号) *2022 年福井県の産地品種銘柄に設定</p>	
<p>3. 稲種：ピカツンタ (品種登録番号：第 2 9 3 6 3 号) *2022 年品種登録成立</p>	
<p>(4) 学会活動等</p>	

5. 地域・社会貢献活動

1. 福井県池田町「生命に優しい米作り」審査委員(2020年4月～現在に至る)
2. 畜産試験場外部評価委員(2019年4月～現在に至る)
3. 農業試験場遺伝子組換え安全委員会外部委員(2016年1月～現在に至る)

6. 大学運営への参画

(1) 補職

(2) 委員会・チーム活動

1. 学生支援委員会
2. 生物資源学部備品委員会
3. デジタル推進委員会サーバー更新ワーキングチーム

(3) 学内行事への参加

オープンキャンパス(2022年8月7日, 11日)
オンラインオープンキャンパス(2022年8月21日)
丸岡高校あわらキャンパス見学会(2021年5月16日)
入試説明会(大野高校 2022年7月7日、北陸高校 2022年7月26日、福井工大附属福井高校 2022年8月23日)
美方高校大学出張講義(2022年11月9日)

(4) その他、自発的活動など

北陸技術交流テクノフェア出展(2022年10月20-21日)
ふくい農林水産まるごとフェスタ出展(2022年11月12-13日)